

## 誘引・捕獲のスケジュール

### (1) 誘引開始時期の選定

シカを誘引しやすい時期は、一般的に自然界の食物が少ない時期である。

誘引に適した時期は地域による違いもあり、食物が慢性的に不足している地域では時期をあまり選ばないでも誘引されることがある。

秋の落葉期以降が誘引の効果が高まる時期であるが、狩猟期に入ると猟の影響で誘引された個体が攪乱される可能性もあることを頭に入れておいた方がよい。

### (2) 誘引餌の選択

誘引場所の生態系に悪影響を与えないものであることが必須の条件であり、入手のしやすさと管理のしやすさにより選択する。

在来の生物に影響を与える外来生物（小動物、植物）の持ち込みは絶対に行ってはならない。自然度の高い環境でハイキューブなどの輸入飼料を使用する場合は、生態系への影響について専門家の意見を聞くことが望ましい。

長期間にわたって給餌を行うことから、給餌による土壌への影響についても注意する。

#### 重要

- ・ 誘引餌の種類を選択は、誘引餌の補給体制・誘引する地域の環境に対する影響を考慮して行うこと。
- ・ 必要に応じて複数の種類を組み合わせ、効率的な誘引を図ること。

以下にこれまでに利用実績のある誘引餌を列挙する。

### ハイキューブ

ハイキューブ（HayCubes）は、アルファルファなどの乾草を 35 × 35 × 35 ~ 75mm 程度の立方体に固めたもので、牛の飼料に用いられている。

堅く圧縮された乾草なので、持ち運びが便利であり、乾燥した状態を保てば長期間の保存ができるため、利用範囲が広い。また、牧草のみでできているので、偶蹄類以外の動物を誘引する可能性が低い。

ただし、自然下で食べ物が多い状況の中ではシカに食物として認知されないことがあるようで、一定期間、誘引の効果が見られない場合は誘引餌の種類を追加するなどの工夫が必要である。

JA（全国農業組合連合会）などで取り扱っている。海外からの輸入品が多いが、信頼できる商品を利用する必要がある。



図6 蒔いた直後のヘイキューブ（左）、一部が被食されたもの（中）、完食の状態（右）

### 圧片大麦または圧片とうもろこしなど

穀物を圧片処理加工をしたもの（蒸煮により加熱し、ローラーなどで加圧してフレーク状にしたもの）で、乾燥した状態では長期の保存が可能である。

ヘイキューブでの誘引が不十分な際などに併用する。

イノシシやカラスなどの雑食性の鳥獣を誘引する可能性もあることから、他の動物の誘引状況を見ながら利用するのがよい。

### くず野菜

廃棄処分されるくず野菜を誘引に用いる。葉菜類を主として用いるが、根菜類など、時期に応じてあるものを使うこともある。栄養価が高く、嗜好性が高いものが多いが、くず野菜を継続的に誘引餌に用いると、農作物に対する嗜好性をさらに高めてしまう可能性がある。

誘引した個体をしっかりと捕獲することが使用の前提となるが、捕獲対象とならないシカ以外の雑食性の鳥獣を誘引する可能性もあるので、誘引状況には注意を要する。

### 嗜好性植物のさし木など

捕獲する地域においてよく採食される樹木をさし木にして誘引餌にしてもよい。水を入れた容器を地面に埋めて、さし木の状態にしておけば、すぐに枯れることもなく、一定期間誘引することができる。モチノキやミカンの枝を挿し木にして用いた例がある。アオキの鉢植えを置いて誘引を試みた例もある。

### (3) 誘引の方法

誘引を効率的に行うには、しっかりとしたシカ道ができている場所（シカが頻繁に利用し、足跡がしっかりと残っている場所）を見つけ、囲いわなの設置に適した平坦地をその近隣に定め、まずはわなの設置前に誘引を始める。

できれば囲いわなの設置候補地は離れた場所に複数選定し、誘引餌の被食状況を見て最も誘引状況が良い場所にわなを設置する（図7）。

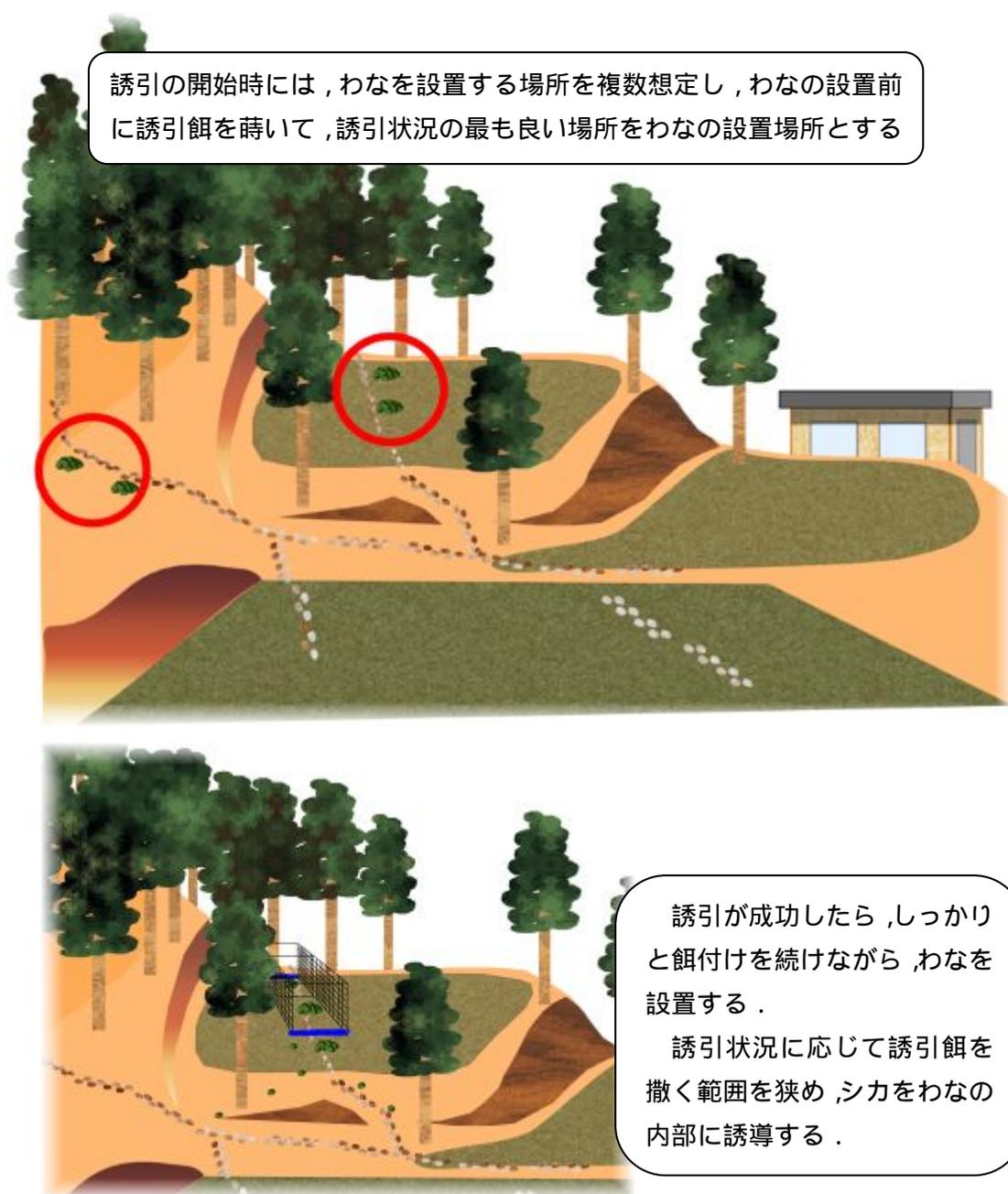
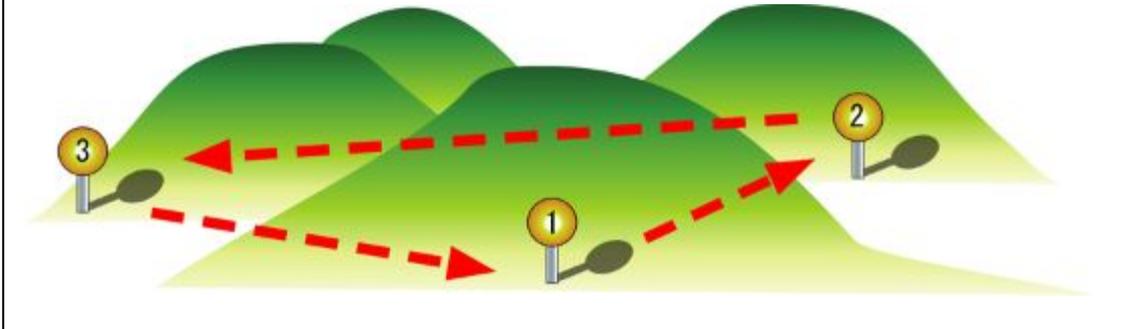


図7 誘引開始時のイメージとわなの設置

【参考】広域に候補地を設ける例

広域で複数の候補地を設けて輪番で捕獲を行う方法も考慮する。この方法は、複数の地点で誘引を続けることで、わなの設置場所での誘引が不調であったり、捕獲が成功して、以後の捕獲効率が低下した場合に、わなを第2候補地 第候補地へ移動させていくことで捕獲効率を保つ方法として用いられる。



誘引餌をシカが食べるようになったら、誘引餌が途切れないように補給を続け、しっかりとシカを餌付けする。(隣接する複数箇所でも餌付けをしていた場合は、わなの設置箇所のみ集中的に餌付けを行い、他所での給餌は中止する)

誘引状況はセンサーカメラを用いてチェックするが、誘引の最初の段階ではセンサーカメラの無い状態で、安心して誘引餌を食べることができる環境とした方が早く誘引が成功する可能性が高い。

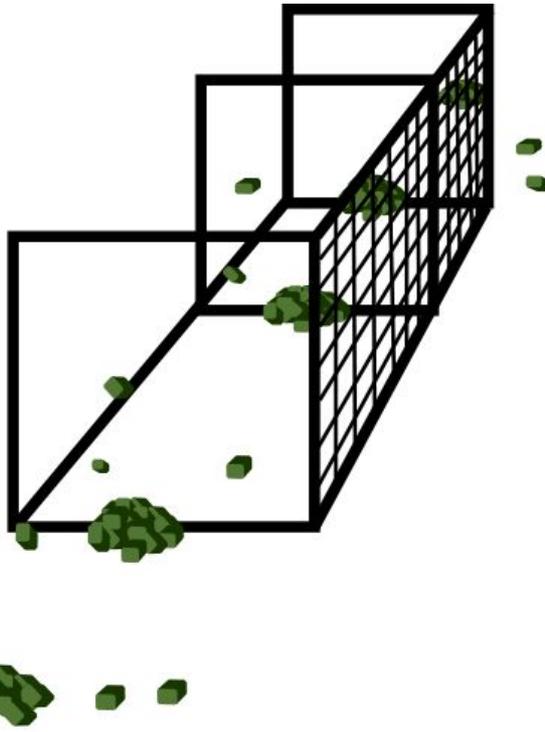
数日間、餌付けを続け、誘引が成功した場合は、速やかに囲いわなの設置準備に入る。囲いわなの設置は、シカへの影響が大きくなるように配慮しながら行う。

囲いわなを設置した直後には、シカは警戒して誘引餌に寄りつかなくなる可能性が高い。わなの設置直後には誘引餌の配置を少し広げて誘引を続ける。前段階でしっかりと誘引ができていれば、数日後にシカは誘引餌を食べ始めるので、徐々に誘引餌の配置をわなの近くに狭めていく。

スケジュールに余裕がある場合は、わなの一部(片面のメッシュだけとしたり、フレームだけとする)を設置し、シカが再度誘引されてから全体を完成させる。

最終段階では、わなの内部に大部分の誘引餌を配置し、周辺部の誘引餌はごく微量とする。わなの中にシカが進入していることが確認できれば、できるだけ速やかに捕獲体制に移行する(図8)。

スケジュールに余裕がある場合は、わなの一部を設置した状態で誘引を続け、わなに対する警戒心を低減させる。  
例えば、メッシュを片面だけ貼った状態や、フレームだけでメッシュを貼らない状態で誘引する。



わなの完成後、誘引ができていれば、誘引餌をわなの中央部に配置し、捕獲体制に入る。

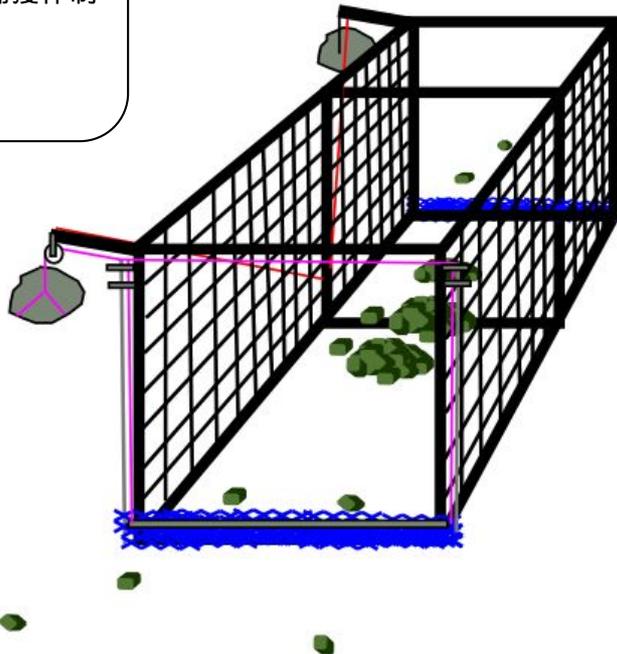


図8 段階的なわなの組み立てと誘引

## 誘引・管理

### (1) 誘引状況の確認

誘引状況の確認は、センサーカメラによる誘引個体の写真撮影，誘引餌の採食状況，足跡などの痕跡の有無の確認などにより行う。

デジタルカメラ式のセンサーカメラを用いるとその場で誘引された個体の構成の確認を行うことができる。また，誘引から捕獲に移る時期の決定にも有効である。

#### 【参考】センサーカメラについて



- ・センサーカメラはSDカードにデータを記録する方式で，夜間撮影が可能なものを用いる。
- ・可視光線で発光するものはシカに警戒心を抱かせるので，IR(赤外線)フラッシュにより撮影するタイプを用いる。
- ・IRフラッシュやカメラの作動音を警戒する個体もいる。そのため，センサーの感知距離の範囲内でできるだけ遠い位置に設置し，囲いわなの入り口の正面からは少し角度をつけた位置に設置する。
- ・動画撮影を行うと，シカの警戒心の程度がわかる場合がある

センサーカメラの例 (Moultrie game spy D55 シリーズ)



## (2) 誘引餌の管理

誘引餌の管理については以下の点に留意する。

- ・ 誘引が成功し、シカが誘引餌を食べている状況であれば、誘引餌がなくならないように常に補給を行う。
- ・ 誘引が不調で、古い誘引餌が残っている状況である場合、定期的に古い餌を除去し、新しい餌を補給する。残った餌の上に新しい餌を加える方法だと、嗜好性が低下することがある。
- ・ シカ以外の動物が誘引餌に餌付いている場合、ハイキューブなどシカ以外の動物を寄せ付けない種類の誘引餌に変える。

## (3) 誘引餌以外の誘引物

誘引餌で誘引の効果が低い場合には、他の方法を導入すると効果が上がる可能性がある。以下の方法は、海外に狩猟を行う際に用いられている誘引法であるが、わが国では効果を確認した例は少ない

- ・ デコイ (decoy)・・・等身大の動物の模型で、同種の動物を誘引するために用いる。

小豆島の大型囲いわなに設置した例では、一度誘引に成功した後、犬の群れが居着いて誘引個体がいなくなった場所で再誘引に利用した。わなの奥までシカが進入してこなかった場所で、デコイを囲いわなの中央部に設置し、誘引餌の配置場所を徐々に奥に移動させてわなの奥までの誘引を図ったところ、1週間後にはわなの奥に進入した個体が見られた。

デコイの効果によりスムーズに誘引できたのかわからないが、このような事例を蓄積し、設置のタイミング、場所について最適な条件を見つけ出していく必要がある。

- ・ ルアー (lure)・・・臭いによる誘引物質で、尿などの抽出物を用いたものが海外では販売されている。誘引物と言うよりは、人間の臭いを消すのに役立つ程度の効果である場合もあるようだ。

本事業では試験を行っておらず、ニホンジカに対する効果は明らかではない。